



平成29年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(平成29年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

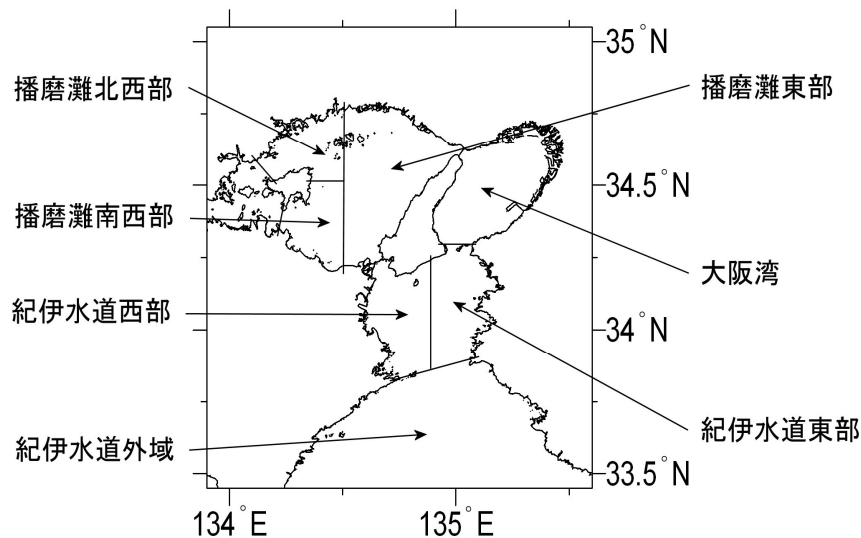
シラスは平年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年並みで平年を下回る。

紀伊水道西部では好漁であった前年並みで平年を上回る。

大阪湾・播磨灘東部・播磨灘南西部・播磨灘北西部では好漁であった前年、平年を下回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所
担当：業務推進部 日向野、廣瀬
資源生産部 小畑、河野
電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216
当資料のホームページ掲載先URL
<http://abchan.fra.go.jp/>

平成29年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2017年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部のシラスは不漁であった2016年並みで平年を下回る。

紀伊水道西部では好漁であった2016年並みで平年を上回る。

大阪湾・播磨灘東部・播磨灘南西部・播磨灘北西部では好漁であった2016年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、2006年～2015年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2016年1月～2017年4月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2016年の漁獲量は前年の162%、平年の125%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の93%、平年の53%であった。2017年春季シラス漁は4月24日に始まった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2016年の漁獲量は前年の120%、平年の118%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の143%、平年の148%であった。2017年春季シラス漁は4月24日現在、始まっていない。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2016年の漁獲量は前年の134%、平年の149%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の162%、平年の266%であった。2017年春季シラス漁は4月20日現在、始まっていない。

大阪湾（大阪府）では2016年の漁獲量は前年の102%、平年の105%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の109%、平年の123%であった。2017年春季シラス漁は4月24日に始まった。

大阪湾（兵庫県）では2016年の漁獲量は前年の104%、平年の127%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の121%、平年の194%であった。2017年春季シラス漁は4月20日現在、始まっていない。

播磨灘東部（兵庫県側）では2016年の漁獲量は前年の101%、平年の109%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の107%、平年の208%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2016年の漁獲量は前年の211%、平年の120%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の787%、平年の223%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2016年の漁獲量は前年の143%、平年の125%であった。2016年5月～6月の漁獲量は前年の186%、平年の130%であった。

2017年の播磨灘における春季シラス漁は4月24日現在、始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道での卵稚仔調査結果

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2017年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は11兆粒（前年比11%、前年比19%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に0粒/m²（前年2粒/m²、平年8粒/m²）、3月に2粒/m²（前年比63%、前年比9%）であった。仔魚密度は2月に0個体/m²（前年2個体/m²、平年2個体/m²）、3月に1個体/m²（前年比137%、前年比14%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年、平年同様0粒/m²、3月に1粒/m²（前年なし、前年比42%）であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m²（平年0.02個体/m²）、3月に0個体/m²（前年0.5個体/m²、平年3個体/m²）であった。

(3) 今後の見通しの説明 (2017年5月～6月)

シラス (本年春季発生群)

4月24日現在、シラスの来遊環境に影響を与える黒潮流路は、都井岬で著しく離岸、足摺岬～室戸岬でやや離岸、潮岬で接岸している。海面水温衛星画像によると、都井岬南東に大きな蛇行流路が形成されていることが確認できる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS 予測結果を併せて考慮すると、5月～6月における室戸岬沖から潮岬沖には大規模な蛇行が伝搬し、蛇行の通過前に接岸、蛇行の通過時に離岸すると予測される。

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に依存する。4月24日現在、黒潮は潮岬で接岸し、5月～6月の黒潮流路の変動予測から来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし、日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2016年、平年を下回っている。紀伊水道外域でのシラス漁は低調であり、紀伊水道でのシラス漁は4月24日からようやく始まった。来遊環境、卵仔魚の出現や漁期開始の遅れなど本漁期の状況は2016年と類似しており、本漁期の漁模様も2016年と同様に推移すると考えられ、紀伊水道東部では不漁であった2016年並みで平年を下回ると予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの来遊環境は概ね良いと考えられる。また、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘及び紀伊水道外域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量から判断すると紀伊水道西部では好漁であった2016年並みで平年を上回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び来遊環境に依存する。4月24日現在、黒潮は潮岬で接岸しており、5月～6月の黒潮流路の変動予測から来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし、日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2016年、平年を下回っている。また紀伊水道外域でのシラス漁は低調であり、紀伊水道でのシラス漁は4月24日からようやく始まったことから、大阪湾では好漁であった2016年、平年を下回ると予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び来遊環境に依存する。播磨灘東部・播磨灘南西部・播磨灘北西部では大阪湾と同様の理由から、好漁であった2016年、平年を下回ると予測される。

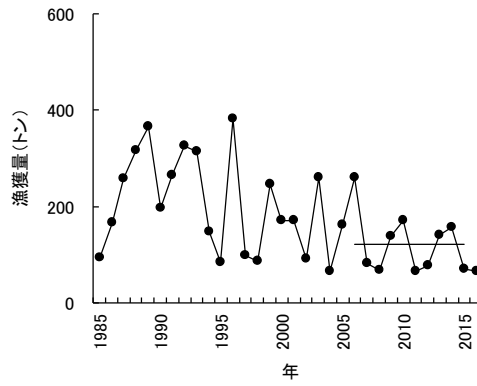
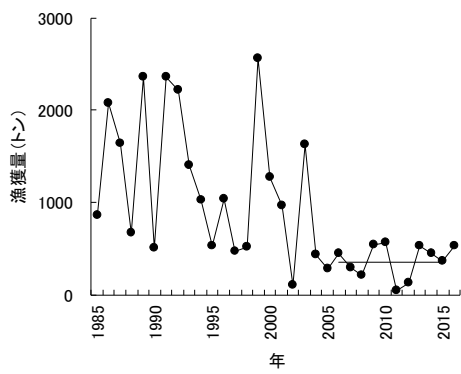


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

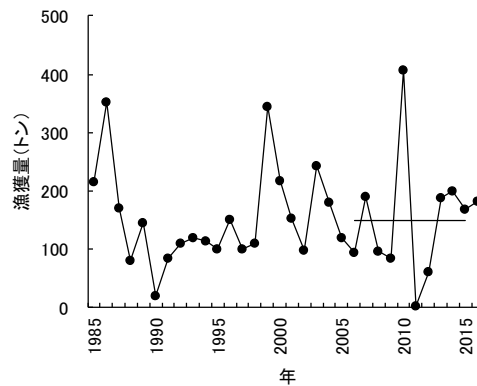
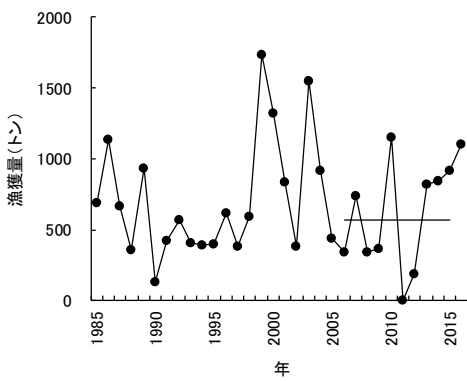


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

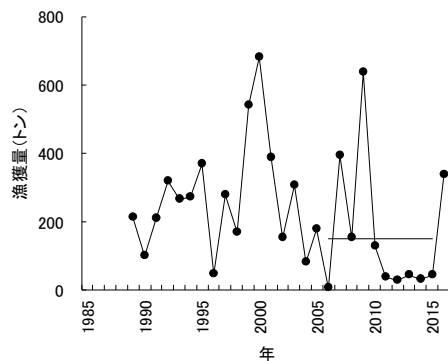
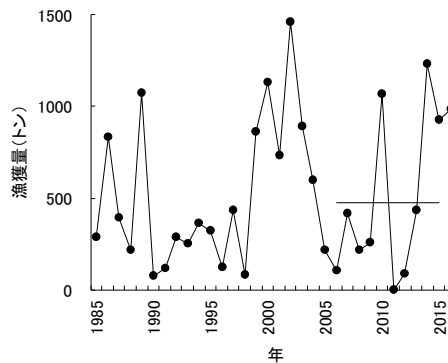
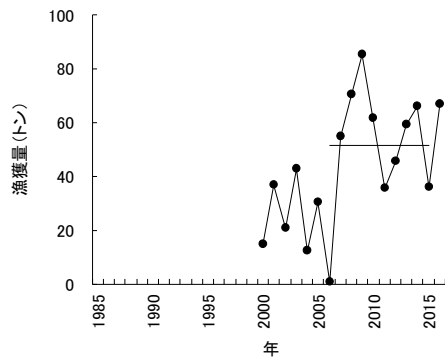


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	---